

第Ⅱ部 インドネシアの労働災害発生状況

I はじめに

インドネシア共和国人的資源省（Ministry of Manpower）の公式ホームページでは英語版の記載はなく、また、インドネシアの労働災害統計に関する資料は見当たらなかったため、以下には、

[資料その1] インドネシアの労働災害発生状況（2017-2020年）（インドネシアの労災補償保険制度参加者からの労災請求件数（2017-2020年））

「資料その2」：2017年10月から11月にかけて開催された国際協力機構（JICA）主催、中央労働災害防止協会技術支援部国際センターが受託実施した「Improvement of Policy on Occupational Safety and Health - From Policy Development to Implementation Measures-」（課題別研修「労働安全衛生政策向上-制度構築から具体的対策まで-」）における参加者による国別報告（Country Report）のうち、インドネシアからの参加者である、IKA SRI WULANDARI 女史が発表された国別報告（以下「資料その1」という。）

「資料その3」：2016年10月～11月にかけて開催された国際協力機構（JICA）主催、中央労働災害防止協会技術支援部国際センターが受託実施した JICA KNOWLEDGE CO-CREATION PROGRAM “IMPROVEMENT OF POLICY ON OCCUPATIONAL SAFETY AND HEALTH-FROM POLICY DEVELOPMENT TO IMPLEMENTATION MEASURES”（JICA 知識共同創造プログラム、労働安全衛生政策向上-制度構築から具体的対策まで）における参加者による国別報告（Country Report）のうち、インドネシアからの参加者である Tomy Mismahedra 氏が発表された国別報告（以下「資料その1」という。）、
で提供された労働災害発生状況に関する資料から引用した。

II 労働災害発生状況について

（「資料その1」による。）

インドネシアの労働災害発生状況（2017-2020年）

インドネシアの労災補償保険制度参加者からの労災請求件数(2017-2020年)

年	2017年	2018年	2019年	2020年
労働機能障害	3,331	4,458	3,072	2,605
部分的機能障害	2,402	4,232	2,984	2,715
永久完全機能障害	31	32	35	9
死亡	2,364	3,400	3,172	2,515
治癒した症例数	114,913	161,293	173,572	82,802
労働災害合計	123,041	173,415	182,835	90,646

資料出所:

Menghadapi Tantangan Memperkuat Inovasi Berkelanjutan,

https://www.bpjsketenagakerjaan.go.id/assets/uploads/laporan_tahunan/BPJS_IR2020_LO16_Lowres.pdf, p107

▶ <https://www.bpjsketenagakerjaan.go.id/laporan-tahunan.html>

「資料その2」による。

6. Accident Rate by National Worker Insurance Compensation				6 国家労働災害補償保険による災害の発生率			
				(左欄の各欄の指標の日本語仮訳)			
Year	Accident	Fatality	Fatality Rate (in 100.000 workers)	Year	Accident	Fatality	Fatality Rate (in 100.000 workers) 労働者 10 万人当たり の死亡者数
				(西暦年)	(災害件数)	(死亡災害件数)	
2005	99,023	2,045	6.82				
2006	95,624	1,784	5.95				
2007	83,714	1,883	6.28				
2008	93,823	2,124	7.08				
2009	96,134	2,114	7.05				
2010	98,712	2,191	7.30				
2011	99,491	2,218	7.39				
2012	103,074	2,419	8.06				
2013	103,285	2,438	8.13				
2014	105,383	2,375	7.92				
2015	110,285	2,302	7.67				
2016	101,367	2,272	7.60				

6. Accident Rate by National Worker Insurance Compensation

Accident rate by National Workers Insurance Compensation			
Year	Accident	Fatality	Fatality Rate (in 100.000 workers)
2005	99,023	2,045	6.82
2006	95,624	1,784	5.95
2007	83,714	1,883	6.28
2008	93,823	2,124	7.08
2009	96,134	2,114	7.05
2010	98,712	2,191	7.30
2011	99,491	2,218	7.39
2012	103,074	2,419	8.06
2013	103,285	2,438	8.13
2014	105,383	2,375	7.92
2015	110,285	2,302	7.67
2016	101,367	2,272	7.60

9

6 国家労働災害補償保険による災害の発生率

(左欄の各欄の指標の日本語仮訳)

Year (西暦年)	Accident (災害件数)	Fatality (死亡災害件数)	Fatality Rate (in 100.000 workers) 労働者 10 万人当たり の死亡者数)
---------------	--------------------	----------------------	---

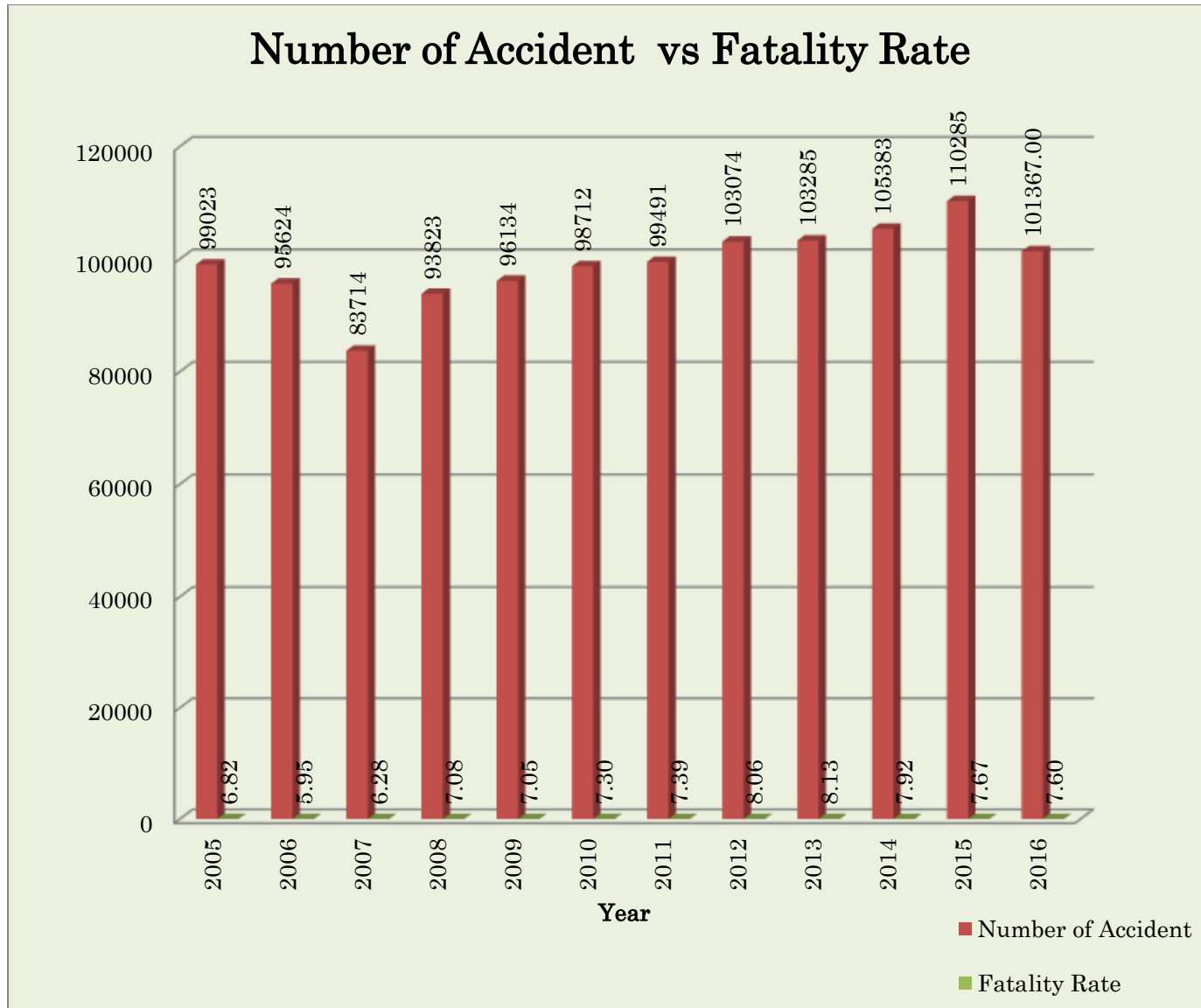
(「資料その3」による、2005年から2011年までの職場における災害件数及び補償額 (単位: 10億ルピア (資料作成者注 1米ドル=13,776ルピア (2018年3月26日, インドネシア中央銀行) また、1ルピアは約0.0076円)

Workplace Accidents in period 2005 – 2011

Year	Accidents	Compensation (IDR billion)
2005	99,023	219,2
2006	90,071	196,5
2007	83,714	219,8
2008	93,823	296,4
2009	96,697	328,5
2010	98,711	401,2
2011	99,491	504,0

Jamsostek annual report 2011

(次の図表は、「資料その2」による、2005年から2016年までの職場における災害件数及び死亡率（労働者10万人当たりの死亡者数）)



(訳者注：日本の近年における労働災害死亡率（労働者 10 万人当たりの死亡者数）を試算した結果を別記として次に示したが、これによると、インドネシアの死亡労働災害発生率（労働者 10 万人当たり）は、2016 年では 7.60（日本は 1.80）、2015 年では 7.67（日本は 1.92）となっているので、インドネシアの死亡労働災害発生率（労働者 10 万人当たり）は日本の 4 倍以上となっている。

なお、死傷災害の発生率についての日本との比較は、統計データ上の制約があるので、行わなかった。）

(別記一資料作成者注：日本の労働者 10 万人当たりの労働災害死亡率（2013～2017）の試算結果（2018 年 7 月）)

日本の労働者 10 万人当たりの労働災害死亡率（2013～2017）の試算（2018 年 7 月）

年	死亡者数 (A) (厚生労働省労働基準局)	該当する年の雇用者数合計 (万人。資料出所：総務省統計局) (B)	左欄のうち、役員を除く雇用者数 (b)	雇用者のうち、公務及び国防・義務的社会保障事業 (国際分類の O に該当する) 従事者数 (単位万人) (C) (各年の平均)	D=b - C (単位万人) (公務及び国防・義務的社会保障事業従事者 (C) については、役員はいないものと想定した。)	労働者 10 万人当たりの死亡傷害発生数(E) =((A)÷ (D) ×10)
2013	1,030	5,558	5,213	229	4,984	2.07
2014	1,057	5,603	5,256	235	5,021	2.11
2015	972	5,653	5,303	231	5,072	1.92
2016	928	5,741	5,391	231	5,160	1.80
2017	978	5,810	5,460	229	5,231	1.87

資料出所

- 「死亡者数 (A) (厚生労働省労働基準局)」：職場のあんぜんサイト <http://anzeninfo.mhlw.go.jp/user/anzen/tok/anst00.htm> から抜粋した。
- 「該当する年の雇用者数合計 (万人。資料出所：総務省統計局) (B)」及び「左欄のうち、役員を除く雇用者数 (b)」：<http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/03roudou.html> における「長期時系列表 10 (1) 年齢階級 (10 歳階級) 別就業者数及び年齢階級 (10 歳階級), 雇用形態別雇用者数 - 全国」<http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/zuhyou/lt52.xls> から抜粋した。
- 「雇用者のうち、公務及び国防・義務的社会保障事業 (国際分類の O に該当する) 従事者数 (単位万人) (C) (各年の平均)」：<http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/03roudou.html> における「長期時系列表 5 (4) 産業 (第 12・13 回改定分類) 別雇用者数 - 全国」<http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/zuhyou/lt05-06.xls> から抜粋した。

2. Data collection methods for statistic

1. collect data from the District for Employment → Act No. 07 Year 1981 concerning Compulsary to report the Employment
2. collect data from the District for equipment certification → Act No. 23 Year 2014 concerning Regional Autonomy
3. Collect data from services company specialty in OSH development for OSH officer

2. 統計のためのデータ収集方法

1. 地区の雇用状況からのデータ収集→雇用の報告の義務化に関する 1981 年の法律第 07 号
2. 地区の設備の認証についてのデータ収集→地域の自治体に関する 2014 年法律第 23 号
3. 労働安全衛生専門官のための労働安全衛生専門サービス会社からのデータ収集

(「資料その3」による。)

 <p>Recent OSH condition</p> <p>Workplace Accidents in period 2005 – 2011</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>Accidents</th> <th>Compensation (IDR billion)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2005</td><td>99,023</td><td>219.2</td></tr> <tr><td>2006</td><td>90,071</td><td>196.5</td></tr> <tr><td>2007</td><td>83,714</td><td>219.8</td></tr> <tr><td>2008</td><td>93,823</td><td>296.4</td></tr> <tr><td>2009</td><td>96,697</td><td>328.5</td></tr> <tr><td>2010</td><td>98,711</td><td>401.2</td></tr> <tr><td>2011</td><td>99,491</td><td>504.0</td></tr> </tbody> </table> <p>Jamsostek annual report 2011</p>			Year	Accidents	Compensation (IDR billion)	2005	99,023	219.2	2006	90,071	196.5	2007	83,714	219.8	2008	93,823	296.4	2009	96,697	328.5	2010	98,711	401.2	2011	99,491	504.0	<p>○最近における労働安全衛生条件</p> <p>作業場における災害の発生状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>西暦年</th> <th>災害数</th> <th>補償 (10億インドネシアルピア)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2005</td><td>99,023</td><td>219.2</td></tr> <tr><td>2006</td><td>90,071</td><td>196.5</td></tr> <tr><td>2007</td><td>83,714</td><td>219.8</td></tr> <tr><td>2008</td><td>93,827</td><td>296.4</td></tr> <tr><td>2009</td><td>96,697</td><td>328.5</td></tr> <tr><td>2010</td><td>98,711</td><td>401.2</td></tr> <tr><td>2011</td><td>99,491</td><td>504.0</td></tr> </tbody> </table> <p>(訳者注：10,000インドネシアルピアは、日本円で約83.5円に相当する。 (2017年4月10日時点)</p>			西暦年	災害数	補償 (10億インドネシアルピア)	2005	99,023	219.2	2006	90,071	196.5	2007	83,714	219.8	2008	93,827	296.4	2009	96,697	328.5	2010	98,711	401.2	2011	99,491	504.0
Year	Accidents	Compensation (IDR billion)																																																			
2005	99,023	219.2																																																			
2006	90,071	196.5																																																			
2007	83,714	219.8																																																			
2008	93,823	296.4																																																			
2009	96,697	328.5																																																			
2010	98,711	401.2																																																			
2011	99,491	504.0																																																			
西暦年	災害数	補償 (10億インドネシアルピア)																																																			
2005	99,023	219.2																																																			
2006	90,071	196.5																																																			
2007	83,714	219.8																																																			
2008	93,827	296.4																																																			
2009	96,697	328.5																																																			
2010	98,711	401.2																																																			
2011	99,491	504.0																																																			

(訳者注)

上記のインドネシアの職場における労働災害発生数がカバーしている範囲は、休業1日以上か、又は休業4日以上（死亡災害を含む。）ものかに関しては明確でないが、日本における労働災害発生率（年千人率。休業4日以上及び死亡災害についてのものである。）と比較するために、次の表中のデータによってインドネシアにおける労働災害の年千人率を試算して比較してみると、次の表のとおりである。

暦年	日本（全産業年千人率。休業4日以上の	インドネシア
----	--------------------	--------

	災害及び死亡災害が対象である。)					
		全産業雇用者数（単位：千人）（A）（ILOSTATによる。）				
		西暦年	全産業雇用者数（単位千人）	全産業労働災害数	労働災害発生年千人率	注
2011年	2.1	2011年	39,468	99,491	2.52	
2012年	2.1	2012年	不明	103,074	2.61	2011年の全産業雇用者数で除した。
2013年	2.3					
2014年	2.3	2013年	41,124	103,285	2.51	
2015年	2.2	2014年	41,124	105,383	2.51	
2016年	2.1	2015年	57,733	110,285	1.91	
2017年	未発表	2016年	不明	101,367	1.76	2015年の全産業雇用者数で除した。

(「資料その3」による。)



⊕ The number and cost of occupational accidents in Indonesia have been increasing in recent years. The rising number of accidents reflect poor OSH awareness from the industry sectors and lack of OSH supervision by government



⊕ インドネシアにおける労働災害の数及びコストは、近年増加している。災害の増加の数は、産業部門における貧弱な労働衛生の認識及び政府の労働安全衛生監督の欠如を反映している。